

平成30年11月20日付【下水道情報】
＜下水道アセットマネジメントのための管理会計に関するセミナー＞

(公社)全国上下水道コンサルタント協会(水コン協)は12日、「下水道アセットマネジメントのための管理会計に関するセミナー」を東京都文京区の全水道会館で開催した。京都大学防災



大西准教授

研究所巨大災害研究センター(内閣府民間資金等活用事業推進委員会専門委員)の大西正光・准教授による基調講演のほか、水コン協が昨年度に設置して継続的な活動を行っている「下水道アセットマネジメントのための管理会計勉強会」の発表会もあった。

当日はまず国土交通省下水道部下水道事業課の那須基・事業マネジメント推進室長が開会挨拶を行った後、大西准教授が「PPPとは何か? 何のためのPPPか?」をテーマに講演。PPPをめぐるのは「“公共にお金がないからPPPでやる”という誤った認識もある」とし、PPPのメリットとしては「設計・建設・運営・維持管理をまとめて業者に委託することで業者の技術的裁量が拡大する“バンドリング効果”、これに尽きる」と強調した。

続いて勉強会からの発表があった。勉強会は4つのテーマ別グループで構成されており、NJSの増屋征訓氏が「経済学的意思決定・経済分析の要素」、日本水工設計の鈴木淳氏が「経済的意思決定の方法」、日水コンの福永健一氏が「財務計画と継続的改善」、三協技術の渡辺勝久氏が「アウトソーシングの契約」についてそれぞれ成果を発表した。その後、京都大学の藤木修氏をコーディネータに迎えて、大西准教授と4名の発表者によるパネルディスカッションが行われた。